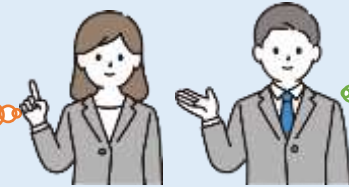


## 資料①パートナー校間における交流（実践編）

私たちの学校では、互いの授業を参観して、  
このような情報交換を行いました！

小学校の  
A先生

中学校の  
K先生



### 学習内容

小学校で学習する「語句」「表現」を使ってどのような言語活動をしていますか。パフォーマンステストはどのように行っていますか。



ALT に「札幌の魅力を伝えよう」や、架空の町で「友達が行きたいところに道案内をしよう」等の設定で、発表ややり取りをしている様子を評価します。



他にも様々な目的や場面、状況を設定して活動をしています。  
3年生から6年生までの言語活動一覧をお渡しますね。

リスニング、やり取り、スピーチ、Small Talk 等の言語活動を目的や場面、状況を大切にして行ってきたことが分かりました。



### 指導方法

小学校の中学年では、適切な声の大きさや話す速さ、アイコンタクトやジェスチャー等の態度について、指導しています。



高学年では、それらを踏まえて、既習表現を積極的に使うことに重点をおいて指導しています。ペア、グループでのインタビュー活動、全体の前での発表活動や端末への録画なども行っています。

たくさんの言語活動を通して「その場」で話すことを大切にしてきたのですね。

中学校では、小学校で培った力を更に伸ばせるよう、Small Talk 等の言語活動を通して「即興的」に話すことを目指して指導していきます。



### 教材

配付された小学校の教科書を見ました。Picture Dictionary がついているのですね。授業ではどのように新出単語について指導していますか。



チャンツや歌を通じた学習のほか、独自に作成したピクチャーカードを提示しながら発音を練習する活動をしています。カードでは、文字よりも絵を大きくしています。卒業生には、Picture Dictionary は中学生になっても使えそうだと伝えていきます。



Picture Dictionary は中学校でも使えそうだとおっしゃったおかげで、生徒が自宅保管していたので、引き続き中学校でも授業で使っています。



このような交流を踏まえて指導の工夫を図ることが重要です。